北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

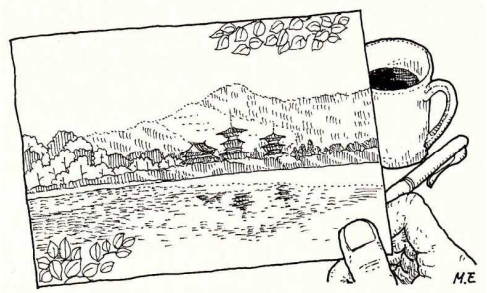
ジャガイモ

校長通信　№.２６５

令和５年　６月２６日

「 考① ～修学旅行記・法隆寺～」

校長　江　口　　満



5月に入って天気予報とにらめっこの日々が続いた。修学旅行中の週間予報では、何とか晴れマークが見え隠れしている。しかし台風2号の影響だろうか、九州北部地方や近畿地方の梅雨入りは、平年よりも約一週間、昨年よりも二週間ほど早くなった。つまり梅雨のど真ん中の修学旅行となる。コロナ禍で目的地を変更したこともあり、その苦い経験からしたら実施できるだけでも良しとすべきか。雨の奈良・京都も趣（おもむき）があるか。しかし、「春雨じゃ濡れて行きたくない。」というのが本音。昨年の修学旅行での強烈な思い出があるからだ。昨年は、奈良公園に到着したころから雲行きが怪しくなった。大仏を見学して鹿との自由時間直前まで何とか持ちこたえる。「自由時間！鹿せんべいを買ってもいいよ！」と指示が出た瞬間、土砂降り。雨脚で風景が曇る。靴には土なのか、鹿の〇〇なのかがまとわりつく。それだけは勘弁（かんべん）してほしい。でも今考えればそれも楽しい思い出の一つだ。

雨と言えば、この学年が二年生の時に実施した「九重キャンプ教室」が頭から離れない。初日の夕方、ホテルに到着したころから天候が崩れた。しかし、登山当日の翌朝には天候が回復する予報だった。平地であればその予報通りだっただろうが、登山口の牧ノ戸峠の標高は高い。雨が降っているというより雲の中だった。だからＮ学年は、勇気ある決断をした。久住山の山頂に、学年の皆と立ちたかったあの悔しさが、今でも私の心の中に残っている。

台風2号は一年ふれあい合宿中に、ポツンと発生した。その後、台風の進路と天気予報をずっとチェックした。梅雨入り宣言も出され、ある程度の雨は覚悟した。山ではないので雨でも中止にすることはない。しかし台風が直撃して、新幹線が止まったら修学旅行はどうなる。しかも台風が沖縄近海でほぼ止まっている。不安がよぎった。

しかし我々の思いが天に通じたのか、本校の修学旅行は台風の後を追うことになった。ただ、台風2号の影響で近畿・東海地方で被害が発生したとも聞き胸を痛める。そしていよいよ修学旅行当日を迎えるのである。【次号に続く】

６月４日(日)学年スローガン「考～最高の仲間と共に」のもと、好天にも恵まれ修学旅行がスタートした！【上】出発式で挨拶する実行委員長Ｔさん・小倉駅と新幹線での様子【右】法隆寺での学年写真

「最高の仲間と共に」　３年２組　Ｔさん

実行委員長になった時、絶対に最高の修学旅行にしようと決めました。そのためにも私が一番楽しもう、みんなとたくさん笑おうと思い、学校を出発しました。

歌って、話して、少しふざけて、大爆笑。人狼して、おやつを食べて、また少しふざけて、大爆笑。とにかく楽しくて、奈良までの数時間がほぼ一瞬でした。お寺などを回る時も、なんだかんだみんな楽しそうで、その雰囲気もが楽しく感じました。

修学旅行初日、最も盛り上がったホテルでの夜。私の部屋では、恋バナが始まりました。自分のエピソードを語り、旅行中の目標などを話し合ったことがすごく心に残っています。それぞれの話をする皆の顔がすごくかわいかったです。電気を消して布団にもぐってから、声をひそめて静かにさわぐ時間こそ、実は修学旅行の醍醐味だったのかなと思います。この一晩が一番の思い出です。

夜話した目標を胸に、二日目、三日目の散策を迎えました。嵐山、清水寺での写真撮影や恋みくじ、お守り交換など、一つ一つの出来事に喜び、キュンキュンするみんなが輝いて見えました。もちろん友達同士でたくさんの写真をとったり、色々と食べたりもしました。個人的に感激したことは、外国人の方に何度も声をかけてもらったことです。英語での対応も実践でき、外国人の方に笑顔で「ありがとう。」と言われたことが何よりもうれしかったです。普段できない経験ができました。

こんなふうに楽しいこと、ドキドキすること、うれしいことなど、本当に良い思い出が山のようにできました。私が実行委員長としての務めを果たせたかどうかは分からないけど、笑顔しかなかったと言ってもほぼ間違いない、そんな最高の修学旅行になり、今、すごく幸せな気持ちでいっぱいです。

「クラスも成長した修学旅行」　３年３組　Ａさん

中学校に入って一番楽しみにしていた修学旅行。その最大の行事をやり遂げた。正直行く前は不安もあった。自分は班長と部屋長だったので、上手くやり遂げられるだろうか。友達と仲良くやっていけるだろうか。だがその不安を消し飛ばすぐらい最高の修学旅行だった。

一日目の朝は早かった。すごく眠たかったが僕の胸は期待でいっぱいだった。そして体育館へ入り、N先生や他の先生の話を聞き、満を持してバスに乗り込んだ。則松中学校から小倉駅までの短時間だったが、歌を歌ったりしゃべったしてとても楽しい時間だった。そこから新幹線とバスを乗り継ぎ念願の奈良へ着いた。法隆寺は最古の木造建築だけあって、どっしりとした貫録を感じた。そしてこの旅で一番思い出に残った奈良公園の東大寺に到着した。東大寺へ足を一歩踏み込むと言葉を失った。目の前に見たこともないほど大きな大仏が視界に映りこんだのだ。大きいとは聞いていたが、想像をはるかに超えて思わず息をのんだ。こんなに大きな仏像を現代の人ではなく昔の人が当時の知恵を振り絞り、苦労して建てた背景があり、驚きと共に自分は興奮した。その余韻に浸りながら東大寺を後にした。その後ホテルに着き、友達とわいわいしながら充実した一日目を終えた。

二日目、私達は嵐山に来ていた。嵐山では初の班での行動だったので、班長としての自覚を持ち皆をまとめながら回ることができた。私達班の嵐山の目的は竹林だった。竹林へ着くと幻想的な空間で、日常では経験できない体験だった。最高な一日で終えることができると思ったが、ここでハプニングが起こった。念入りに注意をされていたが、カギを持たずに部屋の外に出てしまったのだ。先生にこっぴどく怒られ、苦い思い出となり、また心に残る思い出ともなった。

名残惜しい最終日。私達は京都の最大観光地、清水寺へと向かった。清水寺の風景は、写真で見るよりはるかに美しく華やかだった。ここでM先生の話を思い出す。「清水寺の上から飛び降り生還した人は夢が叶う。」というものだった。だが下を見るととても高く、恐ろしく感じられた。それを飛び込むほど夢を叶えたかった昔の人々は、やはりすごい。そう考えながら清水寺を後にした。

こうして私達の修学旅行は幕を閉じた。この修学旅行でクラスとしても成長でき、団結力が増し、以前より仲が深まった。このクラスでよかったと思えるように、この団結力を生かし、体育祭のリレーで一位を取れるようにしたい。